

問 旧合同庁舎跡地の利活用計画は

答 官民共創を軸に検討の上、方針を整理



新政とうかい
まつえ ひであき
松江 秀明 議員

問 旧合同庁舎の解体工事が進められている。また、旧ストッカー跡地では建屋建設工事が始まり、勝木田下の内線整備工事も進行している。これら原研道路周辺地区は、再整備と地域活性化を図る上で重要な村の資源と考える。工事概要と、跡地の利活用計画について、面的な地域活性化の観点から伺う。

答 旧合同庁舎2号館から4号館の解体工事は令和7年7月に着手し、9月末現在で建屋の解体撤去がおおむね完了、年内の工事完成を見込む。跡地の利活

用計画は現時点で未定だが、官民共創や民間への売却・賃貸借による活用などさまざまな可能性を探り、引き続き検討を進める。これまで「公共施設等総合管理計画」に基づき、民間事業者の意見聴取や施設再編を進めてきた。今年度は「民間提案制度」や「トライアル・サウンディング」の導入も検討中である。住宅地の住環境維持を含めた検討も要する。民間提案制度等を踏まえ、都市計画との整合性を図っていきたい。



解体が進む旧合同庁舎の敷地
(令和7年10月14日撮影)

問 村独自のスクラップ&ビルドの方策は

答 既存事業の見直しを徹底して行う



新政とうかい
ささじま しろう
笹嶋 士郎 議員

問 9月の村長選挙では、「次世代」と言うキャッチコピーを掲げ、誰もが豊かで幸せを実感できる「いいムラ」をつくっていかうと呼びかけた。村独自のスクラップ&ビルドの方策をどう考えるか。

問 「各事業にはそれぞれの対象者がおり、

「スクラップ&ビルド」の考え方は重要であるが、各事業にはそれぞれの対象者がおり、簡単に見直せるものばかりでない。

答 財政課題に対応していくため事業見直しなど徹底した分析を各課に指示している。「スクラップ&ビルド」の考え方は重要であるが、各事業にはそれぞれの対象者がおり、簡単に見直せるものばかりでない。

簡単に見直せるものばかりでない」とはその通りだが、同じ対象者に同様な補助をしていることに疑問を感じないのか。課室が違うだけで同じような業務を行っているなど一貫性がない。その難関を越えることがスクラップではないのか。財政では、利息の付かない決済用普通預金をなぜそのままにしているのかなど、再度覚悟を伺う。



既存事業の見直しが求められる執行部